



国土交通省
中国地方整備局

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism
Chugoku Regional Development Bureau

平成30年7月11日

速報

同時資料提供先

岩国市政記者クラブ
岩国日刊記者クラブ
広島県政記者クラブ
合同庁舎記者クラブ
中国地方建設記者クラブ

平成30年7月豪雨における弥栄ダムの効果について

～小瀬川からの氾濫被害を防止！～

弥栄ダム流域では、平成30年7月5日から7日にかけて、梅雨前線の影響による豪雨により、降り始めからの流域平均雨量は369mmを記録しました。

この降雨により、弥栄ダムでは、最大流入量が毎秒約860m³に達しました。

これを受けて、弥栄ダムにおいては、ダム下流の区間を管理する太田川河川事務所からの要請を受け、特別防災操作^{※1}を実施し、最大流入量時で毎秒約560m³の洪水をダムに貯留しました。

その結果、下流の小川津地点(山口県岩国市小瀬小川津橋付近)において、水位を約2.4m下げ、小瀬川からの氾濫被害を防止したものと推定されます。

※1 『特別防災操作』とは、ダム下流の更なる被害軽減を行うため、ダム下流河川の水位等の状況に応じ、今後の予測降雨量、ダムの残りの貯水容量等を勘案しながらダムの貯水容量を可能な限り有効活用し、放流量を通常よりも減じる操作です。

ただし、今後、多くの降雨が予想される場合は実施出来ません。

※ 各数値は速報値であり、今後変わることがあります。

【お問い合わせ先】

国土交通省 中国地方整備局 弥栄ダム管理所

TEL 0827-57-3135(代表)

所長 玉田 一雄
(担当) 管理係長 高瀬 徹

弥栄ダムの「特別防災操作」による治水効果(平成30年7月豪雨)【速報】

弥栄ダムの流域では、7月5日から7月7日にかけて梅雨前線の影響による豪雨により、ダム上流域での流域平均雨量は369mmを記録しました。

弥栄ダムでは、ダムへの流入量が最大で860m³/Sに達し、このうち毎秒約560m³の洪水をダムに貯めました。

この結果、山口県岩国市小瀬の小川津地点(弥栄ダム下流2.5km地点)の水位を約2.4m低減させる効果があったと推定され、危険箇所の浸水を回避することができました。

仮に、ダムが特別防災操作をしていなければ、氾濫により約3.8ha・26戸の浸水被害が発生していたものと推定されます。

今回の洪水のダムへの貯留状況

ダム貯水位(通常時)

ダム貯水位(7日14時時点)



最大流入量
毎秒約860m³

今回出水の最高水位 EL115.21m (7月7日15:10)

貯水位が10.05m上昇(貯留分)

雨の降り始めの水位 EL105.16m (7月5日0:00)

弥栄ダム

最大流入量時
の放流量
毎秒約300m³

特別防災操作による貯留量は約2,122万m³
洪水調節容量のうち34%を用いて貯留

弥栄ダムによる効果(弥栄ダムより2.5km下流小川津地点)



小川津水位観測所付近の状況



約2.4m低減

ダムがなかった場合の被害シミュレーション



弥栄ダムの「特別防災操作」による治水効果(平成30年7月豪雨)【速報】

